

編集後記

ローマ法雑誌第5号をお届けします。

今号は、査読付き論文1本、彙報には論文邦訳、書評2本（うち1本は邦訳2篇をまとめて）、学界動向として国際学会参加記、オンライン開催の学会研究会紹介、前号同様に日本ローマ法研究会の参加記及び大会プログラム・報告要旨集も掲載しました。報告要旨の中には、配布資料や報告と質疑を反映したものもあり、研究大会での討議に加え、本誌を契機に活発な研究と議論が深化することを期待させます。

加えて、同様の意図から、《ex libris》欄を新設しました。書評というより、読書感想文に近く、関連する文献の読解・整理・位置づけを通じ、学界の研究動向に迫ろうとする意図に出たものです。

間もなく、SIHDA 大阪大会が開催されます。本誌が世界の諸賢と本邦学界を繋ぐ結節点となるよう、多様な寄稿をお願いします。

日本ローマ法研究会第7回大会は、前回同様、オンライン併用のハイブリッド（ハイフレックス）方式で開催しました。対面会場には遠方からも多くの参加を得て、オンラインによる質疑も活発となり、事務局として嬉しく思います。マイクやカメラ操作など、課題も残りますが、今後、より良いものにしたく考えます。

投稿、査読、大会報告や司会・質疑への参画、大会会期中の「場外戦」（森・参加記参照）など、各位のご協力に感謝申し上げます。

先行研究による史料読解は、今後のローマ法研究の発展にとって、実は出発点でもあります。古代、中世以降の法源研究が、現代的な形を得て、進展するものと期待しています。本誌や大会について、各位からご意見賜りたく、ご教示ください。（佐々木健）